
桜の木の下

樺葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の木の下

【Zコード】

Z5466BA

【作者名】

槿葉

【あらすじ】

朝桜です。2話くらいからフランシスさんもでてきます。耀さんと菊さんもぼちぼち…。菊さんと桜ちゃんは兄妹設定です。耀さんは直接血は繋がってないけど、にーに設定です。これ見てわかるよう人に名呼びです。

初めて会った日

「う…ひっく…なんでだよ…俺、なんにもしてないの…ぐす…」

大きな桜の木の下で6歳くらいの金髪碧眼の幼い子供が泣いています。彼は毎日のように自分の兄達に苛められていきました。

幼い彼は体も力も兄に敵うはずもなく、苛められては泣くばかりでした。

「う…うあん」

「どうしたんですか?」

少年の後ろから可愛らしげな女の子の声が聞こえてきました。

突然話かけられた少年はびっくりしたのと恥ずかしいのとで声と逆の方向を向いてしました。

「ひやー? な、なんだよお前! ! 一名を名乗れ! !」

少年は慌てて涙をぬぐいながら涙声にならないように必死に強気で言いました。

「これは失礼しました。私、＊＊＊と申します。あなたは?」

「お、俺は、アーサー・カークランドだ。それで、俺になんの用だ。」

「

少年はまだ後ろを向いたままです。

「あ、はい。わざわざ、泣いてらしたようだつたので…びひられたのかと…」

「泣いてない！…泣いてなんかないぞ…！」

少年は思わず振り向きました。

「俺を誰だと思ってんだ！…兄さん達に苛められたらしくて泣くわけないだろ！…！」

それは誰の目から見てもわかる嘘でした。

少年の目は赤く腫れて、さつくまで泣いていたのがわかります。といふか、まだ泣いていました。

しかし少女は、

「それは失礼しました。私の見間違いだつたようです。」

と、言いました。

少年は少し驚きましたが、わざわざ自分が泣いていたのを教えるわけにはいかないので、

「わ、分かればいいんだよ…。」

と言いました。

少年は自分の目の前にいる少女を初めてしつかりました。
少女は自分より背の低い、黒髪黒目日本人でした。それはそうで

す。ここは日本ですから。少年は母親の親戚に会いにたまたま日本に来ていただけです。

「少し、お話をさせんか?」

少女は少年のすぐ隣に座りました。
それにつられてるように少年も座り、長袖の襦袢で顔を拭いました。

すると少女が桜の模様のついた可愛らしいハンカチを差しだし、

「よひしかつたらどう?」

と、言いました。

少年は何もいわずそれを受け取り、ハンカチで顔を拭きました。

それから少年達は時間が経つのも忘れて他愛もない話をしました。

そして、そろそろ口も渇む頃

「＊＊＊～、どうですか。そろそろ田が暮れますよー。」

どこからか男の子の声が聞こえてきました。

「あ、お兄ちゃんが呼んでる。

『めんなさい、私、そろそろ帰らなきや。』

少女が立ち上がりました。

少年はとても残念そうな顔をしていました。

「 大丈夫です。またいつか会いましょう。」

少女はそう言って自分を呼んでいる声の方に向かおつとしましたが、立ち止まって

「お兄ちゃんが言ってました。

泣くのはかっこ悪いことじゃないって。
泣く人は、これから強くなるんだって。
だから、泣いてる人がいたら、その人の力にな
れるように、背中を押してあげなさいって。」

「……」

「私、いつでも背中押しますからね。」

少女はそう言って田一一杯笑いました。

少年の顔が赤いのは夕日に照らされているからでしょうか。

少女は少年に背を向けて声のする方に走ってきました。

少年はしばらく少女の後ろ姿を見つめて、気付いたように

「だから俺、泣いてねーつーの。」

と言いました。

少年の手には桜の模様のついた可愛らしいハンカチが握られていま
した。

そしてその日から2人は会うことなく、13年の月日が経ちました。

わかりにくくてすみませんww

次からアーサー

19歳
大学1年

桜ちゃん
18歳

高校3年

で始まります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5466ba/>

桜の木の下

2012年1月14日23時48分発行